

災害復旧事業によせて

平成19年8月 台風5号災害復旧事業によせて



大分県由布市長
首 藤 奉 文

1. はじめに

由布市は、大分県のほぼ中央に位置し、北は宇佐市と別府市、南は竹田市、東は大分市、西は玖珠郡（玖珠町と九重町）に接し、東西24.7km、南北23.4kmにわたり、面積は319.16km²です。

北部から南西部にかけては由布岳や黒岳など1,000m級の山々が連なり、由布岳の麓には標高約450mの由布院盆地が形成されています。これらの山々を源とする中小河川が大分川を形成し東西に流れています。中央部から東部にかけては、山麓地帯と大分川からの河岸段丘が広がっています。

由布市の気候は、標高の高い由布院盆地に代表される西部や北部では気温の日較差が大きく、冬

には最低気温が氷点下になることも多く、積雪に見舞われる内陸性気候と、中央部から東部にかけての標高の低い地域では、雨が少なく温暖な瀬戸内気候とに二分されます。

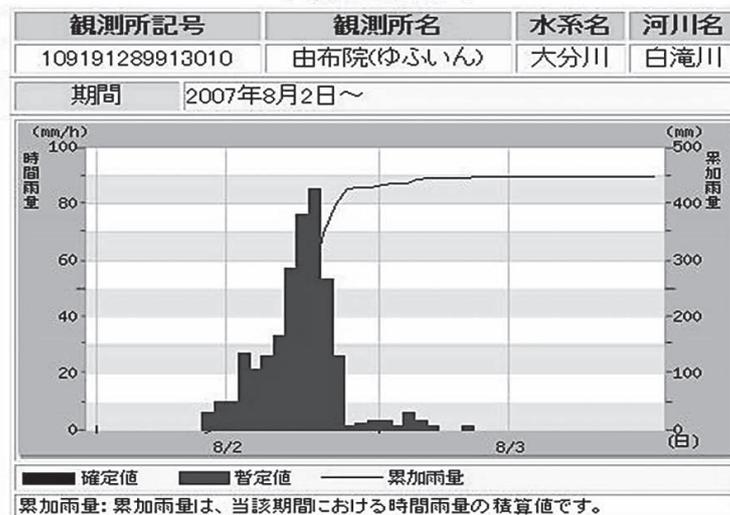
農林業は、米を中心に野菜、花き、果実の栽培や畜産が盛んですが、農家数・農家人口とも減少しています。

工業については、企業誘致の効果もあり、製造品出荷額は増加傾向にあります。

商業については、社会環境の変化や大規模店の進出などにより商店数は減少傾向にありますが、新規店舗の創業や進出はめざましく、新たな商業拠点地域が形成されています。

観光業については、温泉や豊かな自然などに恵

時間雨量図



Water Information System By MLIT 2002

まれており、特に湯布院地域は保養温泉地として多くの交流者が訪れています。

2. 平成19年5号台風

平成19年8月2日、台風5号は大分県を直撃、由布市のシンボルである秀峰由布岳を中心に湯布院地域では、17時から21時までの5時間に亘り304mmの豪雨を記録しました。

急峻な地形に短時間での集中豪雨を受け、20時頃に由布岳が山腹崩壊を起こし樹齢50年前後の杉・檜等が土石と混じり押し流され一瞬の間に河川を堰き止め、交差する県道が流路と化し、県道はえぐられ甚大な被害をもたらしました。河川の沿道は湯布院屈指の観光ポイントで宿泊施設の密集する地域であります。河川幅は7m前後、護岸高2.5mと河川断面が狭小であるため、本来の流路であれば流量超過は明白でありました。しかし、県道が河川と化したために土石流が分散され、道路の被災のみで済んだことは不幸中の幸いでした。

由布院盆地内で半壊1棟、床上110棟、床下105棟の浸水、土砂流入22棟、水道管破損の被害が発



土石による河川堰き止め状況



県道路面流失状況



消防団・自治会による後片付け

生しましたが、けが人を含め人的被害が1件もなかったことは奇跡としか言い表せない思いです。

夜が明け被災状況が判明するにつれ、改めて背筋が凍りつくのを覚えました。

3. 県市の対応

被災翌日から県による河川の埋没土砂約1.5万㎡の除去、県道の応急仮復旧、市による閉塞した中小水路の土砂排除及び全域にわたる薬剤散布を行いました。また、自治会、消防団を中心とした公共空間（道路、水路、公園）の跡片付け、高齢・独居家庭の支援、清掃奉仕、応援などの取り組みが積極的に展開され、地域の絆の太さを再認識することができました。

跡片付けも一段落したところで、行政・自治会・消防団・各種団体がともに災害時における避難体制のあり方、また、被災後の体制づくり等、地域自治の連携をさらに深めることの再確認を行ったところです。

4. 終わりに

被災地の早期復旧のため、迅速な対応、指導をしていただきました国土交通省及び大分県をはじめ関係機関の皆様にあたたためて厚く御礼を申し上げます。

由布市は今後も“自助・互助・公助”の形をとおして被害軽減に努め、地域の防災力向上を目指し、住む人も訪れる人も安全で安心して暮らし、癒されるまちづくりを積極的に進めてまいります。

今後とも御指導をよろしくお願いいたします。